

## C-12 泌尿器科選択プログラム

### 概要

- (1) 泌尿器科選択プログラムは、選択科目として泌尿器科を選択する場合のプログラムである。
- (2) 当院泌尿器科および泌尿器科選択プログラムの特徴：  
入院患者を受け持ち、指導医の管理下で泌尿器科の対象とする一般的な疾患の診断法、知識、治療を幅広く学び、基本的手技の習得を目標とする。  
手術に積極的に参加し、助手として一般外科的処置を学ぶ。  
泌尿器科分野に進まない場合にも、泌尿器科的な疾患に対して適切な対応がとれるようにする。
- (3) 選択期間中には指導医と相談の上、研修医一人ひとりが自分のキャリア育成に合致したSBOsを設定することができる。一方で、選択科研修中においても、中央病院プログラムが2年間で必要と定めた中央病院一般目標GIOならびに行動目標SBOs(EPOC)の達成度を上げる必要がある。

指導責任者：磯山 忠広

### 目標

#### 一般目標(泌尿器科選択研修 GIO)

将来遭遇しうるいかなる状況においても思いやりを持ちながら良質な全人的医療を行うために、泌尿器科疾患の知識・診断・技術を習得することを通して、将来専攻する診療科にかかわらずプライマリケアの臨床に必要な基本的診療能力(態度、技能、知識)を修得する。

#### 行動目標(泌尿器科選択研修 SBOs)

- 個人が決めるSBOs
- 診療科が薦めるSBOs
- EPOCで定める目標

#### 診療科が薦めるSBOs

##### ・主治医としての基本的能力

- (1) 正確かつ詳細な問診を行い、記載する。(態度・習慣)
- (2) 全身、局所の診察を行った上、その所見を記載する(技能、解釈)
- (3) 必要な一般検査を選択し、また結果を判定できる(解釈)
- (4) 一般的な疾患について、適切な治療計画を立てる(問題解決)
- (5) 同科・他科の医師と立ち会いで診察する必要性を判断し、実行する(態度・習慣)
- (6) 必要な与薬、処置などの治療を行い、経過を観察し記載する(問題解決、態度・習慣)
- (7) 上級医・指導医への報告、連絡、当直医への申し送りを確実にを行う(態度・習慣)
- (8) 看護婦その他の医療従事者との円滑な連携を保つ(態度・習慣)
- (9) 患者、家族に対し正しく情報を伝え、了解のうえで医療をすすめる(態度・習慣)
- (10) 院内感染の防止について配慮し、具体的に対応する(態度・習慣)

##### ・専門的な能力

- (1) 一般的な泌尿器科疾患の術前術後、非手術例の全身管理ができる(問題解決)

- (2) 偶発症(発熱、出血、循環不全、呼吸障害、ショック)に対する処置がとれる(問題解決)
- (3) 救急医療を要する疾患の初期診療ができる(問題解決)
- (4) 尿道カテーテル挿入、膀胱洗浄などを適切に行うことができる(技能)
- (5) 膀胱鏡操作にて尿道膀胱内の観察ができる(技能)
- (6) エコー検査にて、腎・膀胱・前立腺・精巣の病態の把握ができる(技能)
- (7) 手術法の原理と術式を理解し、助手をつとめることができる(想起)
- (8) 排尿障害に対する適切な投薬や自己導尿指導ができる(技能)
- (9) 必要な検査を行い、鑑別診断名が列挙できる(想起)

## EPOC で定める目標

### 1. 泌尿器科で必ず修得しなければならない EPOC 項目(マトリックス表で )

A-2-5 泌尿・生殖器の診察

A-3-1 尿検査

A-4-10 導尿法

### B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

B-1-32 血尿

B-1-33 排尿障害

### B - 2 経験が求められる症状・病態

B-3-8 腎・泌尿器系

(1) 腎不全

(4) 泌尿器科的腎・尿路疾患

B-3-9 妊娠分娩・生殖器系

(3) 男性生殖器

B-3-14 感染症

(5) 性感染症

### 2. 泌尿器科で修得するのが望ましい EPOC 項目(マトリックス表で )

A-1 医療面接

A-3-18 MRI 検査

A-2-1 全身観察

A-6-1 診療録作成

A-3-3 血算・白血球分画

A-6-2 処方箋、指示箋

A-3-7 血液生化学検査

A-6-1 診療計画作成

A-3-9 細菌学的検査・薬剤感受性検査

A-6-2 診療ガイドライン

A-3-10 肺機能検査

A-6-3 入退院適応判断

A-3-17 X線 CT

A-6-4 QOL 考慮

### B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

B-1-34 尿量異常

## C 特定の医療現場の経験

C-1 救急医療(救急医療の現場を経験すること)

(6) 専門医へのコンサルテーションができる

C-2 予防医療(予防医療の現場を経験する)

(2) 性感染症予防・家族計画を指導できる

### 3. 全ての科で目標とする項目(マトリックス表では )

I. 医療人として必要な基本姿勢・態度

- (1)患者-意思関係、(2)チーム医療、(3)問題対応能力、  
 (4)安全管理、(5)症例呈示、(6)医療の社会性

### 方略(LS)

指導医数 臨床研修指導医 2 名、学会指導医 2 名、

同時研修は各学年 1 名を原則とする

研修期間は任意(SBOsは1ヶ月研修を想定)

場所は病棟、手術室(OR)、外来

OJT(On the Job Training)が主体

症例ごとに指導医とマンツーマンで研修する。

### 週間予定

	午前	午後	その他
月	手術	手術	8:00-8:45 病棟回診
火	外来	検査・処置	8:00-8:30 病棟回診
水	外来・血液透析	検査・処置	8:00-8:30 病棟回診 18:00～ 症例検討会
木	外来	検査・処置	8:00-8:30 病棟回診
金	手術	手術	8:00-8:45 病棟回診

### 評価(EV)

#### 形成的評価(フィードバック)

随時行う。

**総括的評価** 研修終了時に EPOC の評価入力を行う。

また mini-Peer Assessment Tool (mini-PAT) に評価を記載し、プログラム責任者に報告する。